

東洋陶磁学会 第四十五回大会のお知らせ

初秋の候、会員の皆様には益々ご清祥の事と存じます。

この度、平成二十九年度の大会を左記のとおり多治見で開催致します。奮ってご参加下さいますよう、ご案内申し上げます。

東洋陶磁学会

記

*日時 平成二十九年十月二十一日(土)・二十二日(日)・

*会場 多治見市産業文化センター(岐阜県多治見市新町一・二十三

*テーマ 「自然科学系の東洋陶磁研究報告」
http://www.c-5.ne.jp/~sanbun/

*趣旨 一九七三年十二月に開催された東洋陶磁学会第一回大会の記念講演が、東京大学教授の渡辺直経会員による「古陶磁の理学的研究」であったように、自然科学系の東洋陶磁研究は、当学会の重要な柱の一つである。この間東洋陶磁の分析研究が著しく発展するとともに、制作分野でも自然科学系の研究を取り入れる傾向が進展している。本年度大会では、各方面からの研究成果の発表を行い、人文系の研究者を含む学会全体で、今日の到達点と展望を共有する機会としたい。
なお本大会を契機に、東洋陶磁の基本用語の検討を開始し、今回は問題提起のための報告を行う。

*日程

十月二十一日(土) 十二時三十分より受付 午後一時開会

・東洋陶磁学会常任委員長挨拶 大橋 康二

・記念講演「古陶磁研究と文化財保存科学」 二宮 修治

・研究発表

「瀬戸の土、美濃の土、あれこれ」 須藤 定久

「白天目、瀬戸黒の分析」 太田敏孝・青山双溪

「愛知県陶磁美術館の復元古窯焼成の活動報告」 大西 遼

「考古地磁気と窯跡の電磁気探査」 酒井英男・菅頭明日香

・懇親会 午後六時〜 於・オースタット国際ホテル多治見

十月二十二日(日) 午前九時三十分より受付 十時より発表

*「東洋陶磁の基本用語についての問題提起」

片山まび・森達也・金沢陽ほか

・研究発表

「シンクロトロン光を利用した科学分析」 東 博純・竹田美和

「シンクロトロン光を使った呉須顔料の分析と比較」

太田公典・佐藤文子・梅本孝征

(昼食)

「陶磁器における熱ルミネセンス法の信頼性」

青木智史・出川哲朗

「中国産陶磁器の産地推定に関する研究―福建陶磁を中心に―」

徳留大輔・會澤純雄・桑静・平原英俊・

三浦謙一・羊澤林・栗建安

「初期イスラーム時代におけるエジプト施釉陶器の展開

―保存科学的視点からの検討―」

村上夏希・二宮修治・桐野文良・長谷川奏

十月二十三日(月) 見学会(貸切バス)

午前九時:オースタット国際ホテル前発

美濃焼ミュージアム↓岐阜県現代陶芸美術館↓モザイクタ

イルミュージアム↓元屋敷窯跡・土岐市陶磁歴史館(陶片見

学)↓荒川豊蔵資料館・可児市歴史資料館(牟田洞 窯下、

弥七田陶片見学)↓午後四時四十五分多治見駅北口着・解散

*費用

・大会参加費(参加者全員) 二、〇〇〇円

・懇親会費(二十一日・申込者のみ) 六、〇〇〇円

・昼食代(二十一日・申込者のみ) 一、〇〇〇円

・バス見学会費(二十三日・申込者のみ・昼食含む) 三、五〇〇円

*交通

・JR中央線 多治見駅下車 徒歩約十五分(市役所本庁方面)



【注意】

・参加申込は**十月十日迄**に、振込用紙にてお願い致します。
・発表の演題および順序が変更される場合がございます。
・「発表要旨」を大会前にホームページに掲載いたします。

東洋陶磁学会

一〇二一〇〇七四 東京都千代田区九段南 一五五六

りそな九段ビル五階 KSフロア

電話・FAX 〇三・三三三九・一二七七

http://toyotoji.com/